

# 《歯学部》口腔保健学科

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名	ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】			【2. 汎用的技能】			【3. 態度・志向性】			【4. 総合的な学習態度と職業的専攻力】		科目の教育目標
	1	2	(1) 口腔保健・福祉を理解し、その専門知識と技能を有する。	(2) 患者やその家族あるいは保健・医療・福祉関係者と良好なコミュニケーションができる。	(3) チーム医療や地域福祉活動の一員としての役割を果たすことができる。	(1) 口腔保健・福祉の学習を通じて社会としての自覚を持ち、その責任を果たすことができる。	(2) 医療や介護を必要とする人々に対して、慈しめ思いやりの心をもって支援することができる。	(3) 歯科医療の進歩や社会の医療ニーズの変化に高い関心を持ち続け、生涯にわたり自主的かつ継続的に学習する能力を持つ。	関連分野における事象や課題について自ら学び、適切な判断と必要な行動ができる。					
解剖学・生理学・生化学	◎					○								解剖学では全身の解剖学的知識を習得し、それらが密接に口腔と連携することを理解する。また生理学では細胞の基本構造を理解し、内分泌ホルモンの産生調節、生理作用、機能亢進と機能不全、分泌調節、輸送と排泄を理解する。生化学においては人体諸臓器の発生・分化・加齢の仕組みおよびそれに伴う変化や異常による病態、口腔内構造物の発生・分化・機能について学ぶ。
口腔解剖学・口腔生理学	◎											○		顎顔面口腔領域の局所解剖学的知識を学習するとともに咀嚼部の骨格系や筋系および神経系や内臓系の個体発生を学習する。さらに歯の形態と構造を理解し、固有の歯種の判別ができ、歯の形態を理解する。また口腔領域諸器官の生理機能についての知識を習得し、口腔のさまざまな状態、摂食行動、咀嚼運動、嚥下機構などを理解する。
病理学・口腔病理学	◎								○					疾患の原因と病態に関する基本的知識を習得し、さらに顎口腔領域の様々な疾患の成立メカニズムを生命現象として理解する。
薬理学・歯科薬理学	◎								○					薬物および生理活性物質の作用の基本的メカニズムを理解し、薬物を安全かつ効果的に利用する能力を身につける。
微生物学・免疫学	◎								○					微生物の種類と特性ならびに生体の防御機構を理解し、感染症の基礎的な知識、理論を身につける。また口腔細菌の特徴と病原性を理解する。
歯科衛生士概論	◎								○		○		◎	国民のQOL向上に貢献する歯科衛生士として、その業務と役割についての知識を習得する。
歯科衛生統計	◎								○					疫学とEBMの概念を理解し、臨床や地域保健の場で得られた情報を客観的に分析して評価する能力を修得する。
衛生行政	◎								○					わが国における衛生行政の目的、組織とその意義について理解する。また、関連する法規の内容を修得する。
衛生学・公衆衛生学	◎								○					人々の健康を保持増進するための社会医学を理解し、包括的な問題解決方法の考え方を習得する。
口腔衛生学	◎								○					口腔の健康を保持増進させる理論と方法を理解し、口腔疾患の予防法を習得する。これらの知識と技術を基として、個人から集団を対象としたレベルでの口腔保健管理を実践できるような理解を深める。
オーラルヘルスプロモーション	◎								○		○		◎	オーラルヘルスプロモーションを理解し、実践できる力を修得する。
口腔保健衛生学基礎実習		◎			◎							◎		講義等で習得した口腔保健学に関する知識を基にして、関連する基礎実習を行うことにより、その内容の理解を深めるとともに、問題解決に必要な態度と能力を養う。
医療情報処理学	◎								○					パソコンに慣れ親しみ、歯科医療の中でコンピュータがどのように活用されているのかを知ることが目的である。
医療安全管理学	◎								◎					歯科医療の質と安全を確保するために、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する。
早期臨床実習	○			◎	◎				◎		◎		◎	歯科医療系学生における人間力を高めるため、早期から学生自らのコミュニケーション能力を向上させ、ホスピタリティ・マインドを体得し、また、口腔保健従事者としての自覚や倫理観を習得するために学外の社会福祉施設等において体験実習を行う。またこれらから学ぶ口腔保健学に対する学習意欲を向上させることを目的として、実際の歯科医療現場を見学し、歯科医療従事者の業務内容を体験する。
発達系歯科学	○	○			○							○		小児の心身の成長・発達をふまえて、発達期口腔保健の意義および口腔疾患の特徴、予防ならびに治療法を理解する。また、顎口腔機能の発達過程および不正咬合との関連を理解し、顎口腔機能の育成および個性正常化を促進する口腔保健の立場から支援するための知識を修得する。
保存系歯科学	○	○			○							○	◎	保存治療の種類と内容を理解し、チーム医療を実践するために必要な知識を修得する。
補綴系歯科学	○	○			○							○	◎	顎口腔機能について理解するとともに、障害がある場合に補綴治療によって機能、形態、審美性を回復し維持するための診断、治療、術後管理法について学習する。
外科系歯科学	◎				◎					○				顎・口腔領域に発現する様々な審美や疾患に関する知識を身につけ、それの病態を解析し、治療の中でにおける歯科衛生士の役割と患者とのかわり合いを理解することを目的とする。
歯科放射線学	◎				○					○				歯科診療の診断に必要な放射線を有効かつ安全に利用するための知識と技能。さらにはチーム医療に必要な基本的な手技を習得する。
歯科麻酔学	◎				◎								○	歯科診療において痛みのない安全で有効な処置を行うために必要な歯科麻酔学の知識を理解し、チーム医療に必要な基本的な手技を修得する。また歯科治療中の安全と患者の権利を修得する。
歯科保健指導論	◎	○								○				人々の口腔保健や疾病予防のニーズにあった支援をするために、論理的に思考し、問題発見および解決できる知識・技術を修得する。
歯科診療補助論	○	◎			○									歯科診療補助を行う上で必要な知識を修得することを目的とする。
チーム歯科医療学	○	◎		○	◎									医療・介護制度やチーム(歯科)医療がどのように実践されているかを把握し、その中で歯科衛生士の役割を理解することを目的とする。
チーム歯科医療学基礎実習	○	◎		○	◎									歯科臨床の場でチーム医療の実践に必要な知識・技術を理解し、基礎的な技術を身につける。
高齢者口腔保健衛生学	◎	◎			◎					◎				老化に伴って現れる高齢者の身体的、精神的特徴、口腔領域の諸変化および老人性疾患などについて理解し、介護予防に資する高齢者に対する口腔ケアや生活支援を実施するために必要な知識と技術を修得する。
障害者口腔保健衛生学	◎	◎			◎					◎				障害の種類や特性を理解し、障害者の口腔健康を支援するための基本的知識を身につける。
摂食・嚥下リハビリテーション学	◎	◎							◎		◎		◎	近年、脳血管障害や高齢者の嚥下障害に対するリハビリテーションの重要性が認識され、多職種連携を軸としたチームアプローチが行われている。現在、摂食・嚥下リハビリテーションに携わる歯科衛生士はまだまだ少数であるが、口腔ケアの専門職という立場からチームに必須と求められる。本授業では、将来的に摂食・嚥下リハビリテーションに携わることができるように、摂食嚥下機能法の基礎知識を習得した歯科衛生士を育成する。
栄養学	◎								○					栄養学の基礎を学ぶことを目的とし、生体が外部からエネルギーや物質を取り入れて利用し、正常な生活を営む過程を理解する。
口腔疾患予防学	◎	○	○						○					口腔疾患予防を実現するための具体的な知識を習得し、個人または集団を対象とした口腔保健指導が実践できるような理解を深める。
口腔疾患予防学実習	○	◎	○		○							◎		口腔疾患予防のための基本的知識、技術を習得し、歯科予防処置、歯科保健指導を個人あるいは小集団を対象として応用できる技能を身につける。
口腔介護学	◎	◎			◎				◎				◎	介護の概念や範囲を理解し、具体的な介護技術を身につける。身体的・精神的な変化に対応できる観察力や対応方法を身につけ、遂やかに多職種に連携し協力できる。さらに、要介護高齢者や障害者に対して口腔保健の立場から関わるために、療養の管理、機能訓練並びに日常生活の支援を行うための基本的な知識、技術を理解する。

現代社会と福祉	◎				○		◎		◎	○		現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解し、福祉制度の課題、発達過程、構成要素、関連政策について修得する。
社会調査の基礎	○				○		○		◎			社会調査の基本的事項を理解し、社会調査に係る社会福祉士の役割を修得する。
相談援助の基礎と専門職	◎				◎		◎		◎			社会福祉士、介護福祉士および精神保健福祉士の法制度を理解する。相談援助のための理念を理解し、適切に行動するための知識を身につける。他の福祉専門職の役割や業務の範囲を理解する。
相談援助の理論と方法	◎				◎		◎		◎			社会福祉を推進するために必要な相談援助(ソーシャルワーク)の理論と方法について理解する。さらに、さまざまな事例研究、分析を通してケースマネジメントによる相談援助方法を修得する。
地域福祉の理論と方法	○				○		○		○			地域福祉(コミュニティソーシャルワーク)の概念を学習するとともに、地域福祉の実践に必要な理論と方法について理解する。
福祉行政と福祉計画	○				○		○		○			福祉行政と福祉計画の基本的事項を理解し、社会福祉士の位置づけ、枠組みを修得する。
福祉サービスの組織と経営	◎				◎		○		○			福祉サービスの中核を担う専門職として、福祉サービスを提供する組織やその経営や管理について基礎的な知識を習得する。
社会保険	◎				○		○					社会保険制度に関する基本的事項を理解し、社会保険全般に係る社会福祉士の役割について修得する。
高齢者福祉	○				◎		○		○			老人福祉の社会的背景や理念、目的について理解させる。また、老人福祉、老人保健および介護保険制度の概要とサービス体系、内容および利用手続き等、具体的な実践活動を理解させる。さらに、老人福祉サービスと高齢行政の一体的運用の必要性や民間シルバーサービスの現状とその社会的意義について理解させる。
障害者福祉	○				◎		○		○			障害者福祉の基本的な考え方を理解し、障害者に対する相談援助活動を行うための知識・技術を身につける。
児童・家庭福祉	○				◎		○		○			児童が生活する環境や福祉に関するニーズと各種サービス、児童福祉の法体系、実施期間、施設を理解する。児童福祉および関連分野の専門職種や相談援助活動について理解を深める。
公的扶助	○				◎		○		○			社会保険・社会福祉の基礎をなす公的扶助について理解し、また市民社会において必要不可欠な領域として機能しているための手立てについて理解する。
保健医療サービス	○				◎				◎			医療保険制度、保健医療サービスの基本的事項について理解し、保健医療サービスに係る社会福祉士の役割を修得する。
就労支援サービス	○				◎		○					就労支援制度の基本的事項を理解し、就労支援に係る社会福祉士の役割を修得する。
相談援助演習	◎				◎		○		◎			ロールプレイング等を中心とする演習形態により、専門的技術を習得することを目的とする。特に、学生が自分自身で学習し、考え主体的に行動する態度を涵養し、この演習を通して、他の職種や職種との連携方法や注意点について理解する。
相談援助実習指導	◎				◎		○		◎			社会福祉施設・機関での現場実習の意義を理解し、実習施設に応じた事前の準備や心構えを習得することで現場実習を効果的なものとする。
相談援助実習	◎		◎		◎		○		◎			社会福祉施設・機関における現場実習を通して、現代の社会福祉・医療現場における相談援助技術の実践方法を学ぶとともに、社会の動向をとらえる感性や情報収集能力を養い、社会福祉の理論と実践を一連のものとして理解する。
総合医科学	◎				◎							歯科衛生士、社会福祉士に必要な臨床医学を総合的に修得するとともに、これらの知識と技術を生かして、チーム医療の中で専門職としての業務を遂行できるよう理解を深める。
医療倫理学	◎		◎						○			医療・歯科医療における倫理の重要性を理解し、歯科衛生士の職務と責任に関する基本的な知識、態度及び考え方を学ぶ。
臨床心理学	◎				◎				○			臨床心理学の理論と実践の基礎を学習することを目標とする。
基礎看護学	○		◎						○			看護学を始めて学ぶ人にとって、ガイダンスとなる科目であり、学習を通して看護学に対する興味や関心を高めることをめざす。
口腔保健衛生学臨床実習	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	口腔保健基礎学系および口腔保健支援学系の各講義で学んだ知識に加え、チーム歯科医療実習で学んだ他のスタッフとの連携、記録と報告、管理運営の実務等、「歯科診療補助」全般について実際の臨床現場で確認する。また、口腔疾患予防実習で学んだ「歯科予防知識」や「歯科保健指導」に関して患者の個別性に応じた技術や指導等についても習得する。さらに徳島大学病院に入院している患者を対象としてベドサイドで専門的口腔ケアを実践できる能力を養成する。
口腔保健衛生学臨床実習	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	臨床教授等の開設する歯科診療所、学校現場や保健所、有病者や障がい者関連の施設等において、指導教員の指示の下に施設職員との連携を行いながら歯科予防知識、歯科保健指導および歯科診療補助が適切に実践できる能力を養うことを目的とする。
卒業研究	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	本学科で学んだ知識と技術を踏まえて口腔保健学あるいは社会福祉学に関するテーマを選択し、自ら計画・立案する。さらにその計画に基づいて研究を行い、その成果を口頭で発表し、論文にまとめることによって研究への理解と意欲を養う。